

# POP3 サーバへの CIM 取得元のポーリング間隔の検証

## 目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[構成設定の確認](#)

[構成設定の変更](#)

[取得元サービスの再開](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco Interaction Manager ( CIM ) の Post Office Protocol 3 ( POP3 ) サーバへの取得元 ( Retriever ) のポーリング間隔を確認して変更する方法について説明します。

## 背景説明

eGActiveDB には、POP3 サーバへの取得元のポーリング間隔を増やしたり減らしたりする `egpl_pref_globasettings` 表の中の設定が含まれます。ただし、この設定はユーザ インターフェイス ( UI ) を通じて確認することはできません。

ポーリング間隔を制御する値を次に示します。

```
mail.retriever.servicedelay => 30 secs (default).
```

取得元は POP3 サーバに接続し、各エイリアスをチェックして電子メールを取得します。このサイクルを完了した後、30 秒間スリープ状態に入ります。この設定は、取得元が各サイクル中で POP3 サーバから電子メールを取得するために使用する遅延を反映しています。

## 構成設定の確認

Cisco Interaction Manager ( CIM ) 環境の設定を表示するには、eGActiveDB から次のクエリを使用します。

```
select * from egpl_pref_globalsettings where setting_name like  
'mail.retriever.servicedelay'
```

この設定に関連するフィールドを表示するには、次のクエリを使用します。

```
select SETTING_NAME, SETTING_ACT_VAL, SETTING_DEF_VAL from
egpl_pref_globalsettings where setting_name like
'mail.retriever.servicedelay'
```

注: このクエリでは、**SETTING\_ACT\_VAL** は現在の設定を表し、**SETTING\_DEF\_VAL** は 30 秒のデフォルト値を示します。

## 構成設定の変更

この構成設定への変更を容易に行うため、次の更新ステートメントを使用します。

```
update egpl_pref_globalsettings set setting_act_val = 120 where
setting_name like 'mail.retriever.servicedelay'
```

更新ステートメントは次の結果をもたらします。

変更を確認するには、もう一度このクエリを使用します。

```
select SETTING_NAME, SETTING_ACT_VAL, SETTING_DEF_VAL from
egpl_pref_globalsettings where setting_name like
'mail.retriever.servicedelay'
```

注: この値を変更すると、CIM 側の電子メールの処理に影響を与えますが、取得元サービスが再起動するまでは実行されません。

## 取得元サービスの再開

取得元サービスを再開するには、次の手順を実行します。

1. CIM システム コンソール ( Partition=0 ) にログインします。
2. インスタンス レベルで取得元を停止し、[System / System] > [Partitions] > [Default] > [Services] > [Email] > [Retriever] に移動します。
3. **rx-instance** を強調表示し、[List] ペインで [Stop] ボタンをクリックします。
4. サービス レベルで取得元を停止してから再起動し、[System / System] > [Shared Resources] > [Services] > [Email] > [Retriever] に移動します。
5. **rx-process** を強調表示し、[List] ペインで [Stop] ボタンをクリックしてから [Start] ボタンをクリックします。

注: インスタンスを再起動する前に、**稼働状態**であることを確認します。

6. インスタンス レベルで取得元を開始し、[System / System] > [Partitions] > [Default] > [Services] > [Email] > [Retriever] に移動します。
7. **rx-instance** を強調表示し、[List] ペインで [Start] ボタンをクリックします。

これでプロセスは完了です。